

田地野彰、ティム・スチュワート、  
デビッド・ダルスキー 編

『Writing for Academic Purposes  
——英作文を卒業して英語論文を書く』



本書は、京都大学アカデミックライティング研究会の7人のメンバーによって書かれた力作で、英語によるアカデミックライティングの基本的な考え方を学び、身につけることを目的としている。さらに、どの専門分野に進んでも役立つように、領域に左右されないアカデミックライティングの本質を理解し、修得することを目指している。この目的を実現するために、アカデミックライティングの基本的な特徴をわかりやすく紹介し、それを実践する具体的な手順を段階的に提示し、さらには、京都大学における授業実践も紹介している。

本書の第一の特徴は、アカデミックライティングの基礎概念が論文体の英語で明瞭に説明されていることである。パートⅠの5つの章では、アカデミックライティングの特徴、英語学術論文の議論の展開方法、学術論文で用いられる語彙、論文を書く際に必要になる学術論文の考え方と読み方が紹介されている。

が、各章の日本語による短い解説を除いて、全体は論文体の英語の文章で書かれている。具体的には、すべての章が、抄録・導入部・論文本体・結論・引用文献リストという英語論文の体裁をとっている。読者は、この5つの章を読みながら、英語の学術論文の基本的な考え方に自然に慣れていくことができる。例えば、学術論文において難しいとされている導入部の議論の展開法が紹介されているが、読者は5つの導入部の例からも学ぶことができる。アカデミックライティングの概念の説明自体がその概念の具体例を提供していることに気づいた読者は、抽象的な概念を具体例で確認することができるので、より深い理解が可能となる。

本書の第二の特徴は、アカデミックライティングを構成する具体的な方法が段階的にわかりやすく提示されているということである。英語論文の組み立て方を身につけるための手順と課題が段階を追って周到に用意されている。パート II の7つの章では、主題文を絞り込み、アウトラインから草稿を書き上げる方法、議論をサポートするための論文の探し方・読み方、抄録と導入部の作成方法、論文本体の文章の構成法、結論の書き方、文献の引用方法と提示方法がたくさんの学習課題とともに提示されている。抄録と導入部の書き方については、実際にどのような過程を経て執筆すべきかが課題を通して丁寧に紹介されている。文献の引用法と提示法についてもさまざまな情報源を正確に表記する方法が説明と具体例と課題を用いて親切に解説されている。読者は、それぞれの段階で課題に取り組みながら、実際に英語の文章を書くことを通して英語論文の作成法を体験的に学ぶことが可能である。

本書の第三の特徴は、日本人大学生を対象としたアカデミッ

クライティングの授業実践が紹介されているということである。パート III の3つの章では、京都大学で実践された授業例として、「比較と対比」の文章構造で論文を構成する方法を教える授業、論文の内容を学生同士で評価するピアレビューを中心とした授業、CALL を取り入れたハイブリッド授業が紹介されている。一般に、ライティングの授業は難しいとされているが、京都大学の全学共通教育課程での実践例は、どのような段階を追って、どのような課題を工夫すれば、アカデミックライティングの授業が効果的に運営されるかを提案している。

本書は、理論が明快で、その豊富な具体例が適切であり、実践の手順も段階的でわかりやすいので、英語で論文を書く必要のある大学生や論文指導をする大学教員にとってたいへん有益な教科書・参考書となる。同時に、本書は、学部生以上のさまざまな段階の読者がそれぞれの段階で大いに刺激を受け、学ぶことのできる良書なので、大学院生から研究者に至るまでアカデミックライティングの技能を磨きたいと願っている幅広い読者層に薦めたい。(ひつじ書房、2010年4月、A5判 214頁、2,000円)

——尾崎 恵子 (明海大学教授)